



# 干支について～今年は (うま) 年～

2026年の十二支は「午（うま）」です。動物の馬をモチーフにしているのに「午」と書くのは、「曆」にまつわることばだからです。

十二支は元々12ヶ月、つまり一年間の順番を表す呼び名でした。やがて、その順番に12種の動物を当てはめるようになったのです。

百科事典のポプラディアで「十二支」について引くと、十干十二支（じっかんじゅうにし）という聞きなれない言葉にたどりつきます。

十干十二支（じっかんじゅうにし）とは、きのえ きのと ひのえ ひのと つちのえ つちのと かのえ かのと みずのえ みずのと十干（甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸）の10種類、ね うし とら う たつ み うま ひつじ さる とり いぬ い十二支（子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥）の12種類を組み合わせた曆のことをいいます。それを略して干支（かんし）といい、今回の支援員だよりのタイトルにもある「えと」とも読むのです。

その歴史は、中国の前漢時代より始まり、今から1400年以上前の6世紀ごろ、日本に伝わりました。十干と十二支を組み合わせると、全部で60通りにもなります。これを「六十干支ろくじっかんし」といいます。60通り……つまり60年で一回りするのです。再び同じ組み合わせの年になるまでに、なんと60年かかります。なので、みなさんが生まれた年と同じ組み合わせになるには、還暦になる60歳まで待たなくてははいけません。

日本では現在も巳年、午年、未年と、十二支を年に当てて呼びならわしています。曆だけでなく方位、時間を表したり、生まれ年を占いに用いたり、さまざまな場面で使用されています。

2026年の午年は、飛躍の年と言われます。

みなさんにとって2026年が、活躍出来る1年でありますように！



参考：国立国会図書館ホームページ

<https://www.ndl.go.jp/koyomi/chapter3/index.html>

第三章 暦の中のことば | 日本の暦

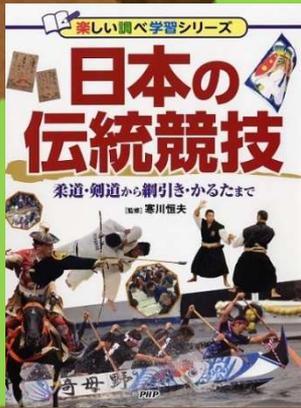
今回の支援員だよりの「干支」を

テーマにしたパスファインダー

(調べもの案内)を作成しました。



# 馬に関する本の紹介



## 『日本の伝統競技』

柔道・剣道から綱引き・かるたまで』

寒川恒夫 監修 PHP研究所

日本に古くから伝わる競技に、馬に乗り、馬を走らせながら、的に矢を射る流鏑馬（やぶさめ）というものがあります。流鏑馬のほかにも、武道や武芸からできた競技から、祭りなどの行事でおこなわれる競技、子どもの遊びから生まれた競技まで、日本の伝統競技を写真やイラストとともに紹介します。



## 『オリンピック・パラリンピック全競技1』

日本オリンピックアカデミー 監修 ポプラ社

夏季・冬季オリンピックとパラリンピックの全競技を紹介。1巻では、馬に乗って競技を行う馬術をはじめ、陸上競技、自転車競技、スケートボード、近代五種を取り上げます。競技の歴史やルール、見どころなどを解説します。



## 『馬のトレーナーという仕事』

世界最強の競走馬を育てる！ JRA 厩舎スタッフでみる競走馬育成業界（会社がわかる仕事がわかる 6）』  
工藤ケン 著 Gakken

馬にまつわる仕事には、馬の世話や調教をはじめとして、さまざまな種類があります。普段どんな仕事をしているのか、この世界を目指すことになったきっかけなどが、関係者へのインタビューや取材を通してわかります。将来、馬に関わる仕事に就きたい人必見です！



## 『妄想お金ガイド』

パンダを飼ったらいくらかかる？』

北澤 功 著 日経ナショナルジオグラフィック

馬を飼うには一ヶ月、一体いくらかかるでしょう？ 獣医師の著者が、動物園や図鑑で見るあこがれの動物と一緒に暮らせたなら、という夢をリアルに考えました。馬はもちろん、タイトルにあるパンダをはじめとして、実際には飼えない動物たちと妄想の中での暮らしを想像してみてください。